

学位論文に係る評価基準と学位審査（大阪大谷大学薬学研究科）

修了要件

本研究科に在籍し、(1)基盤科目 4 単位、専門科目 4 単位以上、演習科目 8 単位及び特別研究科目 16 単位、合計 32 単位以上を修得し、(2)学位審査に合格したものに対して博士(薬学)の学位を授与する。

評価基準

学位申請論文が適切な研究方法のもとに新規性、創造性等を有し、当該分野や社会に貢献できる内容であるか、また学位申請者が当該分野に関連する高度で幅広い専門性、高い倫理性等を有するかを、研究成果、発表等と日常的な研究・教育姿勢をもとに、ディプロマポリシーに照らして、総合的に評価する。

学位審査の方法

本研究科博士課程の修了要件を満たす学生から学位審査が申請された場合、研究科委員会内に学位審査委員会(主査 1 名、副査 2 名)を組織し、査読のある学術雑誌への原著論文、学位論文、学位論文研究発表会における質疑応答を厳正かつ総合的に審査し、ディプロマポリシーに照らして学位授与の妥当性を判定する。(大阪大谷大学学位規程) なお、当該分野における専門性を勘案し、学位審査の主査は副研究指導教員が務め、副査の内 1 名は他分野でかつ専門領域に最も近い本研究科教員が務めるものとする。研究科委員会が必要と認めた場合には、外部専門家を副査に加えることができるものとする。また審査対象の学生が臨床研究等を行った外部協力機関の指導員の意見を聴取し、それを判定の参考とすることができる。

博士論文の公表

博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から 3 カ月以内に、学位論文の内容の要旨及び論文審査結果の要約を公表する。また、国立国会図書館のリポジトリシステムにより、博士論文の全文をインターネットを通じて公開する。

ディプロマポリシー

1.報恩感謝の心と幅広い教養

- (1) 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。
- (2) 生命の尊厳について深い認識をもち、幅広い教養を基に豊かな人間性を身につけ、広く社会に貢献する使命感と高い倫理感をもつ。

2.専門的な知識・技能

社会の発展と文化の向上に貢献できるよう、薬学領域における専門的な知識・技能を修得している。

3.問題解決能力

自ら課題を見出し、問題解決に向けて、修得した知識・技能を基に得た自らの成果を考察し、他者と協働して創造的にアプローチすることができる。

4. 自律的・主体的・共感的態度

- (1) 科学や医療、そして社会の変化や高度化に対応して継続して自己の教養と専門性を高め、後進を指導・育成する意欲と態度を身につけている。
- (2) 広く社会と連携するためのコミュニケーション能力を有し、他者の立場に立って行動できる態度を身につけている。

5. 実践力

情報、また国際社会に深い理解をもち、専攻分野における高度な専門的知識・技能を活用し、広く社会のために行動する力を身につけている。

カリキュラムポリシー

1. 編成の方針

建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、薬学に関わる科目を幅広く履修することによって、自立的に研究を遂行するために必要な能力を体系的に修得できるようにする。

2. カリキュラムの構成

「基盤科目」、「専門科目」、「演習科目」、「特別研究科目」を設置し、自立的に研究を遂行する上で必要な、幅広い教養と専門的な知識・技能、問題解決能力、自律的・主体的・共感的態度、実践力を有する人材の育成をはかる。

3. 教育内容・方法

(1) 報恩感謝の心と幅広い教養

「特別研究科目」、「演習科目」での個別指導を通じて、報恩感謝の心を身につけ、研究者として、自立して研究するために必要な幅広い教養を修得する。

(2) 専門的な知識・技能

「基盤科目」、「専門科目」、「演習科目」、「特別研究科目」の履修により、研究者として必要な高度な専門知識と思考力を身につける。

(3) 問題解決能力

「特別研究科目」、「演習科目」での個別指導を通じて、課題を自ら見出し、研究を遂行することにより問題解決能力を身につける。

(4) 自律的・主体的・共感的態度

「特別研究科目」、「演習科目」での個別指導を通じて、自ら真理を探求し、共感的態度を備えて教育・指導するための能力を身につける。

(5) 実践力

「基盤科目」、「演習科目」の履修により、情報収集、分析、情報共有・発信能力を修得し、国際的視野を身につけるとともに、「特別研究科目」、「演習科目」での個別指導を通じて、成果を広く社会に展開しようとする姿勢を養う。

4. 評価の方法

授業への取り組み、研究成果、発表等での到達度と日常的な研究・教育姿勢をもとに、総合的に評価する。